

II

こうすれば上手くいく

自主防災組織運営マニュアル

1 みんなが納得できるルール作りを

隣近所程度の少人数の自主防災組織であれば、大した約束ごとはいりませんが、人数が多くなればなるほど、組織の位置付け、体系、役割分担を規約として文章化し、みんなが納得しておくことが大切になります。

自主防災組織のルールを明確にすることで、参加者みんなが責任を持ち合い、活動をスムーズに行うことができるようになります。

次の点を中心に、みんなの意見を取り入れた運営ルールを作成しましょう。

●自主防災組織の5W1H●

- (1) なぜ（目的、趣旨、理由）
- (2) だれが（組織、役員、担当）
- (3) 何を（任務、会議、事業、管理）
- (4) いつ（時期、任期）
- (5) どこで（場所）
- (6) どうする（計画、分担）

2 地域の実情に沿った防災計画を立てよう



▲交通・輸送機能をマヒさせる地震

▼同時に多発する火災



▲突然民家を襲った土石流

科学が発達した現代においても、地震の発生を予知することはできません。また、集中豪雨などによる土砂崩れや水害も突発的に起こります。

こうした予期せぬ災害が発生したとき、あわてず効果的な防災活動を行うためには、きちんと防災計画をたてておくことが必要です。

防災計画は、日頃の活動や災害時の活動方法など、具体的なケースに合わせて想定することが大切です。また、お年寄りが多い地域、崖くずれのおそれがある地域、河川が氾濫しやすい地域など、地域の実情に沿ったものでなくてはなりません。自分たちのまちをよく知ったうえで、災害を想定し、細かな防災計画を立てていきましょう。

また、計画内容は、市町村が作成する「地域防災計画」とも密接に関係します。市町村や消防署とよく相談し、適切な指導を受けるようにしてください。

●防災計画に盛り込む内容例●

- 自主防災組織の編成と任務分担
- 防災知識の普及事項、方法、実施時期
- 防災訓練の種別、実施計画と時期、回数
- 防災資機材の調達計画、保管場所、管理方法
- 情報の収集・伝達方法
- 出火防止対策、初期消火対策
- 救出・救護活動、医療機関への連絡
- 避難誘導の指示、方法と避難経路、避難場所
- 食料・飲料水の確保、配給、炊き出し

3 地域の防火クラブとの連携も大切

民間防火組織として、婦人防火クラブや少年消防クラブが設置されている地域も多くあります。こうした団体は、日頃から火災予防の普及や、初期消火訓練を行っている心強い仲間です。

いざというとき、一体となって防災活動ができるよう、連携体制を整えておきましょう。



▲松山まつりで「火の用心」を呼びかける婦人防火クラブ



▲心肺蘇生法について学ぶ少年消防クラブ

4 他の組織とも手を取り合って

大規模な災害が発生し、大勢の人が避難所に集まって不自由な避難生活を強いられるとき、周辺の自主防災組織がいくつか連合すると、もっと強力な活動が期待できます。

こうした連合自主防災組織は、学校が避難所として活用されることなどから考えて、小学校区を単位とした規模で活動するとよいでしょう。

定期的に共同で防災訓練などを実施し、連携を深めておきましょう。



▲校庭での防災訓練



▲バケツリレー

5 防災の専門家に学ぼう

市町村や消防署などは、防災についてさまざまなノウハウをもっています。こうした専門情報を上手に活用することで、自主防災組織は、より実践能力のあるものになります。ふだんから、市町村の防災担当課や消防署と連絡を取り合い、的確なアドバイスを受けるようにしましょう。



● 県や市町村が提供する防災情報 ●

- 災害関連資料の収集
- 地域防災計画の改訂
- 防災に関する講習会の開催
- 防災訓練の実施
- コミュニティ単位での防災資機材の整備